

# 富士山トイレのいま



# TOPICS



富士山の保全における大きな問題のひとつが、し尿処理です。富士山は他の山よりも気象・地形・地質はもちろん、水や電気が期待できず、利用者が2ヶ月の開山期間に集中するなど、トイレの条件がきわめて厳しいため、静岡県では平成10年「富士山トイレ研究会（岩堀恵佑委員長・静岡県立大学教授）」を発足。いろいろな方法のトイレの実証実験や利用者の意識調査などを繰り返し、平成13年度に“富士山トイレの改善に向けて”的最終報告がされました。それを踏まえ、平成14年8月5日、須走口本八合目と山頂の2ヶ所の山小屋にて「バイオ式オガクズトイレ」の運用を開始しました。し尿を外に流さない本格的な自己完結型トイレが五合目以上に常設整備されたのは初めてです。

バイオトイレの断面図



バイオトイレは臭いません。汲み取りは不要です。

## 平成14年度の利用実績

\* 本表は、平成14年7月1日から8月31日までの稼働状況について、関連団体からの報告に基づき作成。  
\* 神社のトイレは、職員用として使用したため、協力金の呼びかけはしていません。  
\* 御殿場口新五合目のトイレについては、協力金の呼びかけはしていません。

事業者名等	仕様	実績	1日当り利用者数	備考
須走口本八合目 胸突江戸屋	バイオ式 (オガクズ)	23日間稼働 延利用者12,008人	522人	山小屋トイレ
須走口山頂 東京屋・扇屋・山口屋共同	バイオ式 (オガクズ)	19日間稼働 延利用者8,865人	467人	山小屋トイレ
須走口五合目 東富士山荘	浄化循環式水洗	62日間稼働 延利用者11,674人	188人	実証実験
富士宮口山頂 浅間大社奥宮	土壤処理式	51日間稼働 延利用者150人	2.9人	神社トイレ
須走口山頂 久須志神社	焼却式水洗	51日間稼働 延利用者180人	3.5人	神社トイレ
富士宮口山頂 富士山グラブ	浄化循環式水洗 (杉チップ)	29日間稼働 延利用者3,361人	116人	実証実験
富士宮口山頂 富士山グラブ	バイオ式 (オガクズ)	35日間稼働 延利用者889人	25人	
富士宮口新五合目 維持管理協議会	浄化循環式水洗	62日間稼働 延利用者74,641人	1,204人	公衆トイレ
御殿場口新五合目 御殿場市	浄化常流 循環式水洗	62日間稼働 延利用者20,617人	333人	公衆トイレ
須走口新五合目 小山町	浄化循環式水洗	62日間稼働 延利用者52,375人	844人	公衆トイレ

## 須走口富士山頂



- 予想をはるかに上回る利用者があり、本八合目のトイレは「バイオトイレを使いたい」と立ち寄る人であふれ、処理能力を超える利用により使用を調整した日もありました。
- 山頂トイレは管理人が常駐していたため、異物の投げ込みもなく、常に清潔に保たれていました。本八合目トイレではトイレの稼働に影響はありませんでしたが、若干の異物投入があり、残念でした。
- 今後は、バイオトイレの維持管理を行うため、チップ制の協力を呼びかけていくとともに、山小屋トイ

## 須走口本八合目江戸屋



レの整備を早期に進め、富士山におけるし尿の放流・浸透処理を解消する予定です。

## ●バイオ式トイレを使用した登山客の感想

- ・富士山のトイレは覚悟していたがかなり汚い。バイオトイレは、清潔で臭いも無く感心した。(30代 男性)
- ・富士山ではトイレに行かないつもりだったが、清潔なトイレで安心した。これなら有料でも仕方ないと思った。(30代 女性)
- ・臭いも無く使いやすい。利用者、管理者の責任分担をはっきりさせるためにも有料化することが良いと感じる。(20代 男性)

## 須走口五合目東富士山荘



- 須走口五合目東富士山荘に山頂と本八合目に続いて、自己完結型の浄化循環式（力キ殻）トイレが設置されます。この方式は、力キ殻を利用した微生物処理によりし尿を分解し、処理水はトイレの洗浄水として循環再利用します。
- このトイレは、昨年から仮設トイレを置いて、実証実験を行なっています。今年も7・8月の2ヶ月間に約12,000人の利用があり、順調に稼動しています。
- 県は来年度以降、すべての山小屋へ環境にやさしいトイレを、できる限り早期に整備できるよう積極的に取り組んでいきます。

## 富士宮口富士山頂

水運びボランティア▶



- NPO法人『富士山クラブ』が富士宮口富士山頂に設置したバイオトイレは、杉チップとオガクズを用いる2タイプ。今回は、昨年8月下旬に稼動を終えた後、山頂初の“越冬”実証実験が行われ、マイナス30℃、風速45mという厳しい環境下のためにトイレ本体に若干の破損はありましたがあ、無事に今年7月20日、再稼動を開始しました。
- 杉チップ式のバイオトイレの稼動に欠かせない「水の補給」にはボランティアの協力が必要で、今夏は750人余の方が水を詰めたペットボトルを持って登山してくれました。